



Sponsor a Child

# クリスチャンパートナーズ

## 通信第 111 号

- 
- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| ・発行日／2023年7月30日             | ・発行所／クリスチャンパートナーズ   |
| ・本部／〒350-1126 川越市旭町 1-19-18 | ・電話 049-242-4338  |
| 日本基督教団 川越教会内                | ・ <a href="https://www.christian-partners.com/">https://www.christian-partners.com/</a> |
| 郵便振替口座／00150-0-134994       |   |
- 

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」

(ヨハネによる福音書第3章16節)

理事長 木ノ内一雄

数年前、ラオスとミャンマーを旅しました。その旅の最終日の夜明け、泊まっていたホテルに突然ゴーンという大きな鐘の音が響きました。近くのお寺からで、何度も続きました。朝食時、同行の中国の方は自分の部屋はそのお寺に面していたのでひどかった、と言っていました。インドネシアのカリマンタンに初めて行った時のことを思い出しました。夜明けに村中にコーランを拡声器で流していました。これは後に、他のイスラム国に行った時にも経験したことでした。欧米から来た宣教師に聞くと、「この人たちは自分たちにとって良いことは、他の人たちにとっても良いことだと思っているからでしょう」と答えました。私が驚いたのは、大きな町のお寺でも同じことをしていたからです。今日、村や町にはいろいろな人々が住んでいます。平和に暮らすには他の人に配慮することが大切です。

旧約聖書には神の前に正しく生きる生き方が律法によって示されています。にもかかわらず、人は神である主イエスを十字架につけました。私たちは自分を、そして他人をさばきます。神の子である主イエスは天の父を愛し、人を愛されました。その愛が私たちを永遠の命に導きます。自分の正しさによって救われるのではなく、主イエスのように神と人を愛し、人の罪を赦すことが求められています。その愛が自分の欲望を満たそうとするこの世の生き方から私たちを守ります。

ガーナからの報告が私たちを驚かせました。隣の村から襲撃を受け、死者まで出たことでした。隣の村とは部族や宗教が違い、彼らには指導者をめぐる不満があったようです。規模は違いますが、ロシアのウクライナ侵攻やミャンマーでの国軍のクーデターにも重なります。そのような世界で、主を愛し、また互いに愛し合うことによって、主イエスの支配する世界を待ち望みたいと思います。

# 西カリマンタン SAC 宣教活動

## 2022 年度・年次報告

サロミ牧師

主による平和がありますように。主の愛が常に私たちの教会活動と SAC 宣教を導き、皆様のご協力で子どもたちの教育が守られています。どうぞ子どもたちの健康が守られ活動ができますように、変わらぬご支援・ご協力をお願いします。

この8月から12月まで、子どもたちは学校で学び、それぞれの教会で色々な活動に参加してきました。親たちの仕事での収入がより多くなり、子どもたちのより良い生活が可能になることを祈ります。授業が年末終了で、子どもたちはクリスマス・新年のお休みに入りました。皆様のご協力で、子どもたちはクリスマスプレゼントをいただきました。学校へ行くときのカバンをいただいて大変喜んでいきます。2022 年度も目標通り、私たちは宣教の業を地域全体に広げることができました。神により、様々な困難から守られたことを感謝してご報告します。

お祈りいただきたい主題：

子どもたちが良い教育を受けることができますように

インドネシアの経済状態が改善されますように

SAC 活動に従事する人々の健康が守られますように

SAC による宣教の働きが、地域の教会との協力で滞りなく進みますように



## 高橋めぐみ先生、カリマンタン再訪

『昨年12月、コロナを経て約3年ぶりにカリマンタンを訪れました。どうなっているかな？と思いましたが、「変わった」と感じたのは寮の舎監たちやスタッフの成長でした。様々な苦労を経てより謙虚になったと感じました。

子ども達も背が伸びて、随分しっかりして大人になっていました。「変わらなかった」のは彼らの笑顔と親しさです。一緒に賛美していると、あっという間に3年のブランクを越えて、いつもの交わりになりました。国を越えての神の家族は素晴らしいです。皆様の祈りとご支援を、心より感謝いたします。

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ

### インドネシア奨学生の近況 前号に続く



ラファエルです。ブンカヤンの国立第4ドヨ小学校の6年生です。この1年間、支援して下さったことをとても感謝しています。いただいたお金は文房具や本を買うために使い、一部は貯金しました。皆さんが、仕事にも伝道にも常に神様に祝福されることを祈ります。



アノデイです。ブンカヤンの国立第9ランカン小学校に通っています。よく勉強できるように文房具を買えるように支援して下さり、ありがとうございます。神様が皆さんをいつも祝福して下さるように祈っています。



セルビア・ラビヤナで、16歳です。国立第1ルマール中学校を卒業したばかりです。私は近々結婚する予定なので、高校には進学しません。中学3年生の時に支援して下さった皆さんに感謝します。父が亡くなったので、とても助けられたと感じています。神様が皆さんの優しさに報いてくださいますように。



マリア・カライです。私はシンタンから来ました。スнгаイドアン・メラウイ高校の11年生です。私の学費を援助して下さった皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。私が満足のいく成績で高校を卒業し、大学へ進学できるように祈ってください。主イエスの祝福が皆さんの上にありますように。



シルビア・アニ 論文作成中です。タイトルは「ポンティアナックのファッション」とのこと。



シャウリンです。交通事故の大けがの後、元気になって卒業論文作成中。皆様の支援を感謝しています。遅くとも秋には卒業予定。

# ガーナから <村の大災害>

報告 木ノ内和美

3月中旬、ガーナのエイモス師より驚くようなメールが届きました。

「3月13日、エイモス師の住む西マンプルシ地区に、イスラム教徒が多く住む近隣のゴンジャス族が突然攻めてきて村を襲い、15人以上の人命が失われ、家々が焼かれ、100万セディもの損失が生じた」というのです。

理事会では事態を深刻に受け止め、即座に10万円の支援金を送ることにしました。エイモス師から感謝のメールが届き、その後、事件の背景について、また今後の防止策についての通信が、支援金の使途とともに送られてきました。

背景には、村の指導者間の勢力争いがあるようで、長年にわたりこの地区を治めてきたエイモス師たちマンプルシ族に対するゴンジャス族の遺恨があったようです。

今後の解決策として、5人のメンバーによる委員会を立ち上げ、キリスト教徒とイスラム教徒が和解のための話し合いの席に着くべく会合が開かれました。その席で、エイモス師は神の愛を説き、キリストに倣い互いを尊重し赦し受け入れたいと話したそうです。

そして日本から送られた支援金で食糧を購入し、エイモス師の村人たちだけでなく、隣村のイスラム教徒のゴンジャス族にも分配したそうです。

今後、このようなことが二度と起こらないように、定期的に会合、或いはフォーラムを開催し、継続的にキリスト教徒とイスラム教徒との理解を深めていきたいとのことです。

今回の出来事は私たちには想像の範囲を超えています。第一報は火災で人家が焼けている衝撃的な動画でした。背景にある部族闘争、宗教間の争いは、私たちには馴染みがないことですが、根本的なところを解決しようとするエイモス師の努力には心を打たれます。今後とも、ガーナの働きを皆様の祈りに加えてくださいますようお願いいたします。

~~~~~

【理事会報告】第222回理事会は2023年2月20日にウェブ会議で開催。第1部では神田英輔師のエチオピアでのお働きについて伺った。第2部では理事の職務分担、今後の運営の仕方について話し合った。「通信」第110号は、2022年12月27日発行済。

第223回理事会は2023年7月18日にウェブ会議で開催。2022年度の会計報告と2023年度の予算を承認。今年度の活動は、支援金の収集状況によって縮小を余儀なくされる可能性があると話があった。

次回理事会日時は未定。

(編集後記 コロナ騒動が下火になりましたが、会員の皆様にはいろいろご苦勞をなされたことと想像しております。ようやく「通信」111号をお届けして、新会計年度が始まりました。主のお守りを祈ります。)

鳥海百合子